

日本原子力学会 標準委員会 基盤応用・廃炉技術専門部会
第97回廃止措置分科会（R3SC） 議事録

1. 日時 2024年7月11日（木） 9:30-11:20
2. 場所：Web会議（Webex）
3. 出席者：岡本主査、目黒副主査、杉山幹事、青井、工藤、黒川、小山、佐藤、高橋、田村、鳥居、仲田、中村、西村、平井、見上、石原、
代理出席：山本（太田委員代理）、白畑（鈴木委員代理）
欠席：田中
以上、敬称略
4. 配布資料
 - R3SC-97-0 議事次第（案）
 - R3SC-97-1 人事案件
 - R3SC-97-2 第96回廃止措置分科会議事録（案）
 - R3SC-97-3-1 耐震安全技術レポートの審議状況
 - R3SC-97-3-2 耐震安全技術レポート書面投票結果
 - R3SC-97-3-3 耐震安全技術レポートコメント対応状況その1（標準委員会・原子力安全検討会）
 - R3SC-97-3-4 耐震安全技術レポートコメント対応状況その2（廃止措置分科会書面投票）
 - R3SC-97-3-5 耐震安全技術レポート 基盤応用・廃炉技術専門部会本報告用書面投票コメント対応表
 - R3SC-97-3-6 耐震安全技術レポート新旧比較表（本文・解説）
5. 議事
 - (1) 一般事項
 - ① 18名/20名の出席により分科会成立を確認した。
 - ② 人事案件 [R3SC-97-1]
太田委員が退任された。また、米山氏の委員就任が委員の投票により可決された。
 - ③ 次回分科会は、7月23日 9:30～10:30（オンライン開催）
今回（第97回廃止措置分科会）の席上コメントへの対応結果及び付録の見直し結果の確認を行う。
 - (2) 前回議事録確認 [R3SC-97-2]
特にコメントなし
 - (3) 耐震安全技術レポート[R3SC-97-3シリーズ]
 - 担当委員から、R3SC-97-3-1～-6に基づき分科会書面投票等のコメント対応状況及び本文、解説の見直し結果について説明があった。
 - 担当委員から、標準委員会席上コメント対応に関連して、農作物摂取に関する線量試算例の説明があった。

- 岡本主査から、安全重要度ランク設定のための線量評価で農作物摂取を考慮しなくても、安全側な判断となっていることを説明すればよく、線量の試算結果の記載は返って混乱のもとになるのではないかと指摘された。また、試算結果は相対値ではなく絶対値で示すべきであると指摘された。このことに対し、主査と担当委員、委員から以下の議論がなされた。

担当委員

農作物摂取の線量寄与割合が分かればよいとの考えから相対値で示した。

委員

質問者の意図に合わせた回答をすべきであり、必ずしも試算例を示さなくてもよいのではないかと。

担当委員

線量が5mSv近傍になる場合は被ばく低減対策が施されるかもしれないが、50 μ Sv程度以下では対策を要しないことも考えられ、その場合は農作物摂取も評価対象とすべきではないかという質問であった。

委員

そうであれば、対策の内容によっては農作物摂取経路の評価を妨げるものではないことを説明するのがよいのではないかと。

岡本主査

“農作物摂取を評価対象外とする”ではなくて、本文に”対策に応じて農作物摂取を考慮しないとすることができる”との旨の記載をし、注釈で“この技術レポートでは対策するものとして評価対象外とした”と記載するのがよい。解説の見直しで追加されたところ(解説1.2)をもとに回答を考え直すこと。

担当委員

本文6.2.2(1)d.のなお書きで、「・・・考慮しないものとする。」とあるところは「・・・考慮しなくてもよい。」とし、「出荷制限が行われる」は「何らかの対策が講じられる」にする。(西村委員)

- 目黒副主査から、内容が分かりにくい箇所を指摘いただいた。
 - a) 4章の「以上を実現するために、」で始まる文章は、「整理する」が3回出てくる。何を整理するのかを記載した方がよい。
 - b) 解説の1.1 1)の第1段落末尾のなお書きが分かりにくい。

担当委員

廃止措置段階ではインベントリが異なるが、類似した事象がたくさん想定されるため、それらをまとめ代表的な事象を設定する類型化を行っていることを説明している。

- c) 2)の真ん中あたり、「サイトの相対線量及び相対濃度の平均的な値を使用した。」とあるが、何に使用したかが分かりにくい。

岡本主査

気象条件に不確定性が含まれることと相対線量、相対濃度の関係が一般にはわからないのではないかと。

担当委員

気象条件の処理の結果として相対線量、相対濃度がある。相対線量は D/Q 、相対濃度は χ/Q を意味している。 D/Q 、 χ/Q を記載する。

- 岡本主査から目黒副主査に日本語の見直し案を提案いただきたいと伝えられ、目黒副主査が了解された。また、担当委員から、不確定性の説明については、本来なら発生頻度を考慮して説明できればよいが、それができない状況があり、説明が分かりにくくなっているかもしれない。文案検討ではそれをご配慮いただきたいと伝えられた。
- 杉山幹事から、誤記等の“editorial”も含め、再度、確認するように、委員に対し、伝えられた。
- 次回分科会（7月23日）に見直し版を議論し、目黒副主査の保留が解除となれば投票により決議を行うこととすることが、岡本主査から伝えられた。

以上